

平成30年7月18日

関係者各位

公益社団法人大阪介護老人保健施設協会
会 長 川合 秀治

第19回近畿ブロック介護老人保健施設大会大阪の開催について

謹啓 皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、当協会の運営に格別のご支援、ご協力を賜りありがとうございます。

さて、平成30年11月30日に別紙「開催要項」により標記大会が開催されますので、多数の会員・職員の方々にご参加いただきますようお願い申し上げます。

つきましては、参加される場合には、参加者氏名、職種をご記入いただき、参加されない場合には不参加と10月26日（金）までご回答くださいますようお願いいたします。

また、参加費につきましては、一人3,000円となっております、各施設まとめて下記の口座まで申込時にお振込みくださいますようお願い致します。

なお、当日の参加券につきましては11月中旬にFAXにて送付いたします。

記

【振込先】

銀行口座 : 三井住友銀行天王寺駅前支店 普通預金 1742021
口座名義 : 公益社団法人大阪介護老人保健施設協会 会長 川合 秀治

【問合先】

公益社団法人大阪介護老人保健施設協会事務局 木場・田島
TEL 06-6774-7601 FAX 06-6774-7651

第19回近畿ブロック介護老人保健施設大会大阪参加申込書

(公社) 大阪介護老人保健施設協会
会 長 川 合 秀 治 様

施 設 名 _____

会 員 氏 名 _____

① 下記の通り、近畿ブロック大会に参加申込みする

近畿ブロック大会参加者（職・氏名）

職	名	氏	名	備	考

② 近畿ブロック大会に不参加

※ 平成30年10月26日（金）までに、大老協事務局までFAXでお申込下さい。

FAX番号 06-6774-7651

第19回近畿ブロック介護老人保健施設大会大阪 開催要項

1. 日 時

平成30年11月30日（金） 9:50～16:40

2. 会 場

大阪国際会議場 グランキューブ大阪 メインホール

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5-3-51

京阪電車中之島線「中之島（大阪国際会議場）駅」（2番出口すぐ）

電話 06-4803-5555

3. 大会テーマ

「医療と介護をつなぐ ～地域包括ケアシステムにおける老健の役割～」

4. 大会スケジュール（案）

9:20	受付開始
9:50～9:55	開会挨拶
9:55～10:05	来賓挨拶
10:05～11:05	特別講演Ⅰ（60分）
11:15～12:15	研究発表Ⅰ（15分×4題＝60分）
12:15～13:15	昼食休憩（60分）
13:15～14:15	研究発表Ⅱ（15分×4題＝60分）
14:15～15:15	研究発表Ⅲ（15分×4題＝60分）
15:15～15:30	休憩（15分）
15:30～16:30	特別講演Ⅱ（60分）
16:35～16:40	閉会挨拶

5. 特別講演

I. テーマ：老健における看取り

講 師：医療法人社団裕和会 理事、長尾クリニック院長 長尾 和宏氏

II. テーマ：脳科学から見た認知症ケア・予防のあり方

～超高齢社会を元気に過ごすためにスマート・エイジングのすすめ～

講 師：[東北大学](#)加齢医学研究所 所長 川島 隆太氏

6. 演題発表

口演：各府県支部より2題ずつ、合計12演題

1演題につき 発表時間：10分、質疑応答：5分

7. 参加費

3,000円／1人につき（昼食代、消費税含む）

8. その他 会場までは公共交通機関を利用

施設までのアクセス（混雑が予測されるため公共交通機関をご利用ください）

最寄り駅

- 京阪電車中之島線「中之島（大阪国際会議場）駅」（2番出口すぐ）
- JR環状線「福島」駅から徒歩約10分
- JR東西線「新福島」駅（2番・3番出口）から徒歩（約10分）
- 阪神電鉄「福島」駅3番出口から徒歩（10分）
- 地下鉄「阿波座」駅（中央線1号出口・千日前線9号出口）から徒歩約10分

近隣駅からバスを利用

- 大阪市バス（大阪市交通局）JR大阪駅前バスターミナルより
 - 黄色2番のりば53系統「船津橋」行「堂島大橋」下車すぐ
 - 黄色4番のりば55系統「鶴町四丁目」行「堂島大橋」下車すぐ
- シャトルバス（緑色：リーガロイヤルホテル）
 - JR「大阪駅」西側（高架下）より「リーガロイヤルホテル」（当会議場東隣）下車
- 中之島ループバスふらら（北港観光バス株式会社）「淀屋橋」バス停（淀屋橋西詰：住友ビル1号館前）より「リーガロイヤルホテル・大阪国際会議場前」バス停下車すぐ

車の場合

- 難波・堺・奈良方面から阪神高速道路1号環状線 土佐堀出口より約10分
- 神戸方面から阪神高速道路3号神戸線 中之島西出口より約5分
- 大阪空港・京都方面から阪神高速道路11号池田線 福島出口より約10分
- 関西国際空港・和歌山方面から阪神高速道路16号大阪港線 波除出口より約15分



演題発表一覧表

※注：発表順番とは異なります

	演題名	抄録要旨	支部	施設名	発表者氏名
1	豪雨災害から命を守れ！ ～自主防災の取り組みと職員防災意識の向上を目指して～	昨年、台風による雨の影響で、施設の近くを流れる姉川が氾濫危険水域に迫った。その事を受け、防災訓練と緊急連絡網の見直しを行った。防災訓練は、河川の氾濫を想定し、1階の利用者を施設の上階へと避難誘導訓練を実施。緊急連絡網は、自宅の位置情報を記載した。結果、防災に対する意識向上に繋げることができた。	滋賀	介護老人保健施設 琵琶	なかじま ひろふみ 中島 裕史 (事務職員)
2	老いてもなお輝く！！ ～「ふれあいサロン」は本日も晴天なり～	老健施設における地域貢献活動の一環として行っている「ふれあいサロン」の活動について、認知症予防を目的とした内容と方法を紹介しつつ、新たな試みとして開催に至った経緯から、今日までの試行錯誤の中での実施状況を、良かった事、苦心した事を織り交ぜながら、3年間の歩みについて紹介する。	滋賀	介護老人保健施設 アロフェンテ彦根	たかはし こうじ 高橋 孝治 (事務職員)
3	尿道留置カテーテル対象者の排泄自立支援 ～老健だからこそ出来る排泄支援のあり方～	入所前から排尿障害があり、尿道留置カテーテルを使用している利用者に対し、病院でも抜去不可能であった利用者が、おむつセンサーを用いて、残尿測定や生活パターンを把握し、尿道留置カテーテルを抜去することに成功した。本人の生活意欲が向上し、ADLだけでなくQOLも向上でき、在宅復帰を果たせたので報告する。	京都	介護老人保健施設 香東園やましな	てらい しょう 寺井 翔 (介護福祉士)
4	ありがとう！ ～リハビリ会議を通じADLと活動性向上に繋がった事例～	左中大脳動脈閉塞により右上下肢麻痺、注意障害、失語症を呈した通所リハビリテーション利用者に対し、リハビリテーション会議を通して、段階的に達成可能な目標が設定できた。きめ細やかに評価や次回までの課題、目標を共有する事で、各専門職の具体的な支援につながりADLと活動性の向上に繋がった好事例を報告する。	京都	老人保健施設白寿	みさわ まゆみ 三沢 真由美 (作業療法士)
5	施設における危機管理対策 ～非常時の訓練を通して考える～	近年の大規模地震や記録的な集中豪雨等の災害に備え、H26年から一年に一度非常時の訓練を行っている。非常食を含め、多職種で危機管理についての検討を行うと共にアンケートを実施し、職員の災害意識の向上に努めている。	大阪	介護老人保健施設 栄公苑	すずき いくよ 鈴木 郁代 (管理栄養士)
6	リハ会議がデイケアを変えた！ ～利用者が主体的に行なうアクティビティがリハ会議から生まれていく～	リハ会議で得た情報と会議内での意識付けから、利用者が主体的に運営し、自ら選択して参加するアクティビティが幾つも生まれ、デイケアが活性化した。このような変革は、利用者の活動量を増加させて身体・認知症リハを強化するだけでなく、自ら運営や選択をすることで主体性や自主性が向上、社会参加のリハともなっている。	大阪	松下介護老人保健 施設はーとびあ	あべ まさひこ 安部 昌彦 (介護福祉士)
7	「家に帰って死にたい」103歳の利用と家族の在宅看取り支援	地域包括システムの構築を推進している中で、医療と介護の連携を図り、老健から自宅に帰って看取りをしたケースがある。施設での看取りの取り組みも行っているが、利用者自身は施設での看取りを余儀なくされている現状がある。「家に帰りたい、家で死にたい。」という103歳の利用者の思いを傾聴し、家族とサービス調整を行い、自宅で看取りをしたケースを紹介する。	兵庫	多可赤十字老人保 健施設	さとう ひろみ 佐藤 博美 (看護師)
8	今日はなにをやるのかなあ～ ～目標認識と自主練習の定義に向けて～	平成27年度の介護報酬改定により、リハビリ職員が実施する「個別リハビリ」と利用者が自主的に取り組む「自主練習」を実施してきた。しかし、職員と利用者の「自主練習」の認識に差が生まれ、意欲の低下もみられた。そこで、利用者自身が主体的に取り組める環境調整をしたことで、意欲の向上と認識の改善に繋がった。	兵庫	介護老人保健施設 白寿苑	よこやま しずえ 横山 しず恵 (介護福祉士)
9	下腿切断後の在宅復帰支援 ～精神的ケアに重きを置いたリハビリを～	通所リハビリテーションでは、機能障害の改善よりも、活動や参加に目を向けたリハビリが求められるようになってきている。今回発表するケースでは、下腿切断というハンディキャップを負いながらも、精神面へのアプローチを中心にリハビリを行い、目標としていた社会参加に復帰できたため、経過と考察内容を報告する。	奈良	介護老人保健施設 そよ風荘	なかじま ひろし 中島 大翔 (理学療法士)
10	学習療法導入14年のあゆみ ～そしてこれから～	川島隆大教授が産官学の共同研究でKUMON等と開発した『学習療法』を平成16年5月から共同研究施設として継続して提供し、これまで約500名の認知症予防・維持改善に努めてきた。学習療法の広がりと共にこの実践は職員教育や認知症短期集中リハビリ加算、地域の予防事業へと繋がり、『若草園の質』を保証する大切なものとなった。	奈良	介護老人保健施設 若草園	えばた ひろこ 江畑 裕子 (社会福祉士)
11	当施設における認知症リハビリテーションの取り組み ～認知症に対する集団リハビリテーションの試み～	当施設における認知症リハビリテーションの取り組みとして、集団に対しての認知症リハビリテーションを実施した。結果いくつかの変化点が確認された。これをもとに、今後の認知症作業療法の実践に繋げていきたい。	和歌山	介護老人保健施設 光苑	おおまえ ひろのぶ 大前 公伸 (作業療法士)
12	「お仕事くださいーい」 ～役割の提供と他者からの称賛により、施設内生活が落ち着いた1症例～	本症例は、認知症と施設内環境により不安が強く帰宅願望が頻回にみられた。生活の中で、「お仕事くださいーい」の言動が多く、不安解消のため生活歴や作業歴から意味のある作業活動を提供した。継続する事により役割の獲得につながり、さらに他者からの賞賛を得ることで落ち着いて生活を送る事が出来たケースを報告する。	和歌山	介護老人保健施設 和佐の里	はまだ あきよし 濱田 晃禎 (理学療法士)